

LIVE FOR TODAY

-天龍源一郎-

出演：天龍源一郎

ナレーション：染谷将太

製作・配給：天龍プロジェクト / 企画：ミレニアムプロ / 制作プロダクション：ブースタープロジェクト
エグゼグティブプロデューサー：嶋田紋奈 / プロデューサー：中林千賀子 加藤英治

監督：川野浩司

<http://www.tenryu-genichiro.jp/movie>

天龍源一郎 革命最後の一年。
プロレスラーとして、男として、家長として—
愛娘と二人三脚で駆け抜けた日々。
最後の瞬間まで時代と闘い続けた等身大の生き様がここにある—

映倫
C110-A
2024年

G
全世代
対象

革命終焉

- 運命の時 -

ミスタープロレスこと天龍源一郎。

馬場・猪木両雄からピンフォール勝ちをした唯一の日本人プロレスラーである。

2015年2月9日、この日、天龍は慣れ親しんだ後楽園ホールにいた。常に居場所を求め、プロレスに没頭していた、その天龍が現役プロレスラー廃業を宣言した。

40年に及ぶプロレス人生に終止符を打つその日まで全力で駆け抜けた10か月間。

別れを告げた時…そこにはたくさんのプロレス愛に溢れた男の結末があった。

たった一人の Revolution Final Tour

ありのままの自分をさらけ出す覚悟。

昭和から平成と時代が変わっても常に今を生き、最後も時代の最先端に行くIWGPヘビー級王者オカダ・カズチカと闘って第一線のままリングを降りた天龍。

ジャンルや世代、団体を問わず激闘を繰り返し、常にリングに上がり続けたミスタープロレス。

第一線でプロレス界をけん引した天龍源一郎の真実の姿とは？

そして、いかにして「最後の試合」に臨んだか？

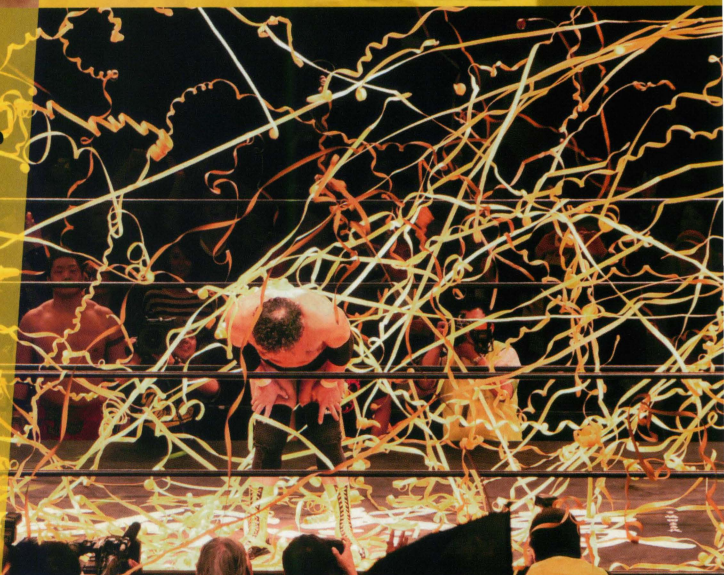
引退発表記者会見に向かう車中、単身G1 CLIMAXに乗り込み

引退試合の対戦相手に対戦表明した直後の様子、控室のドアの

向こう側、本来見る事の出来ない数々の場面に独占密着。

腹一杯のプロレス人生に、何を想い、何を語ったのか。

闘い続けた男、支え続けた家族の物語。



つながる想い

日本全国を駆け巡りつないだファンとの絆、戦友たちとの友情、その瞬間まで支え続けた人々と、その想いに応える天龍。

そして、天龍プロジェクト代表である愛娘・紋奈と二人三脚で駆け抜けた引退ロード、引退を決意した妻の病、引退前夜の夫婦の会話、家族との強い絆。嶋田家の家長としての想い。

追い続けたカメラが捉えたのは誰も知らない現在進行形の、人間・天龍源一郎。

栄光、挫折、プロレスの未来、そして家族への想い…

天龍源一郎がプロレスラーとして歩んだ40年にも及ぶ月日、その瞬間、生き様に迫る。

天龍 源一郎

1950年2月2日生まれ 福井県勝山市出身。

デビュー戦 1976年11月13日 対テッド・デビアス戦。

主なタイトル：三冠ヘビー級王座・IWGPヘビー級王座・PWF認定ヘビー王座・UNヘビー王座・日本J1選手権・世界タッグ王座・IWGPタッグ王座・アジアタッグ王座・インターナショナルタッグ王座・PWF認定タッグ王座・WAR世界6人タッグ・WMGタッグ・NWAミッドアトランティックタッグ、NWA世界6人タッグ王座 他

引退試合は2015年度プロレス大賞ベストバウト受賞の快挙。

ベストバウト受賞9回は史上最多記録、そして受賞総数22は嶋田と並ぶタイ記録である。



ナレーション：染谷将太 「寄生獣」「空海-KU-KAI-」 / 監督・撮影・編集：川野浩司 「ほしのふるまち」「LOVE MY LIFE」

エグゼクティブプロデューサー：嶋田紋奈 / プロデューサー：中林千賀子 加藤英治 / 音楽：Nothing's Carved In Stone 挿入歌「Chaotic Imagination」[November 15th]「Sands of Time」

製作・配給：天龍プロジェクト / 企画：ミレニアムプロ / 制作：プロダクション：ブースタープロジェクト / 2016年 / 日本映画 / カラー / ヴィスタサイズ / HD / 121分 ©2016 天龍プロジェクト www.tenryu-genichiro.jp/movie/

ドキュメンタリー映画「LIVE FOR TODAY -天龍源一郎-」

2017年2月4日(土) 全国ロードショー!